大会宣言 ~~(案)~~

本日、私たちは第 31 回定期大会を開催して、現在の地点と今後の闘う方針を確認した。

「国鉄改革」から 38 年が経過した現在、ＪＲ総連運動は変質しＪＲ労働運動は破壊されてしまった。従って昨年 12 月 11 日、私たちはＪＲ総連を脱退した。それは、私たちが今後もＪＲ労働運動の魂を引き継ぎ、労働者の権利と利益を守るために闘い、組織を強化・拡大していくためである。

本年 6 月 22 日、アメリカ軍はイラン核施設への空爆を行った。私たちは狂気の軍事行動・戦闘行為を弾劾する立場を表明した。日本が世界大戦での敗戦を認め無条件降伏勧告を受け入れてから 80 年。イスラエルによるパレスチナ自治区ガザ地区への空爆、ミャンマー軍事独裁政権によるミャンマー国内での圧政、ロシアとウクライナの戦争、イスラエルとイランの紛争、アメリカによる介入など、いまだに世界規模での紛争が立て続けに起きている。また「大国、強国」と称される国々ではナショナリズムが勢いを増し、移民を排除する運動が起こっている。さらに利己的な経済活動は、深刻な貧困や環境問題を引き起こしている。

日本では未だに、80 年前の沖縄戦で多くの住民が大日本帝国軍の兵士によって殺されたという事実を認めようとしない国会議員の言動が繰り返されている。また「台湾有事」を理由に奄美・石垣・宮古での軍備拡張が進んでいる。今まさに、権力者が構えた銃が私たち労働者一人ひとりに突きつけられているのである。敗戦の翌年 1946 年に公布された日本国憲法は、「もう二度と愚かな歴史を繰り返さず、子どもたちに平和を引き継ごう」との決意であり、戦争放棄、基本的人権の尊重は、人間の尊厳を守り平和を願うすべての人びとの切なる願いだったはずである。

私たち東海労は、綱領に謳われている「国民の先頭に立ち、個人の尊厳を尊重し、日本国憲法に沿った、自由にして公正・平等・平和な社会の実現」のために闘い、東海の地に労働運動の灯を残してきた。それは、過去の労働組合が企業と権力の言いなりになって戦争に加担していったという愚かな歴史を学んだからである。だから私たちは、御用組合・産業報国会への道を拒否して、職場の労働者を代表して声を上げ闘ってきたのである。

多くの労働組合が「平和な社会の実現」と言うが、自らの職場で多くの労働者が虐げられ悩み苦しめられているのに、「見ない・聞かない・言わない・行動しない」姿勢を決め込んでいる。そして労働者のために闘っている私たちのことを会社・権力と一緒になって「過激派」と言ったり「組織破壊者」と言って自らを正当化しているのである。しかし、その偽善はいつまでも通用しない。企業による労働者への労働強化と強権的な支配体制が進めば進むほど、誰が本当の仲間であるかが明確になってくる。

私たちの方針は明確である。私たちは、東海の地から労働運動の炎を燃え上がらせ、平和・人権・民主主義を守り抜き、誰もが平和で安心して暮らせる社会の実現に向けて奮闘する。

以上宣言する

２０２５年７月６日

ＪＲ東海労働組合新幹線関西地本

第３１回定期大会